



COLLAGEN RESEARCH CENTER

1-10-1 Kamikiyoto, Kiyose, Tokyo 204-0013, Japan
Tel+81-424-95-1995 Fax+81-424-95-1990

品名；「K35 NC1」（略称K35）

©2008 4 1 改定 2-1

品番；K35

コラーゲン技術研修会

製品概要；

本質；タイプIVコラーゲンのNC1領域

含量；1mg/1ml

保存；-20C

使用期限；1年

使用上の留意点；1回で全てを使いきる。又は、あらかじめ小分して冷凍保存する
あらかじめ液量を計測し、減水している時は、規定量まで補充する

外観；凍結液

由来；ウシ腎糸球体

溶媒；PBS

防腐剤；添加無し

性状；

- 1)電気泳動（SDS-PAGE）する時、標準と同一のパターンを示す
- 2)抗NC1抗体（ウサギポリクロ、ラットポリクロ、マウスモノクロ）と反応する

用途；サル、ラット他の動物で腎疾患モデル [K35腎炎] を作製する

文献；

- 1)細胞 34 (4) : 36-39, 2002.
- 2)細胞 35 (4) : 40-44, 2003.
- 3)細胞外マトリックス研究法 (5) コラーゲン技術研修会刊. 48-63, 1999.

関連製品；

- 「K36 抗NC1抗体測定キット ELISA」 ラット用、ヒト用
*腎炎で検出される
- 「K35 mono 抗NC1モノクローナル抗体（マウス由来）」
*ヒトや腎炎モデルの障害腎のみを免疫組織染色し、回復腎や正常腎を染色しない
**K35 monoが認識する部位を抗原とした自己抗体がK36により測定される
- 「K34 POLY 抗タイプIVコラーゲン抗体（ウサギ由来）」
*正常腎臓及び障害腎の両者を染色。
- 「K79L タイプIVコラーゲン測定キット（動物用）」 「K79H（ヒト用）」
- 「K34 タイプIVコラーゲン（ヒト胎盤由来）1mg」



COLLAGEN RESEARCH CENTER

1-10-1 Kamikiyoto, Kiyose, Tokyo 204-0013, Japan
Tel+81-424-95-1995 Fax+81-424-95-1990

[K35腎炎]

©2008 4 1 改定 2-2

1 [K35腎炎]とは、タイプIVコラーゲンNC1領域(NC1、品名「K35 NC1」)の投与により惹起される「抗糸球体基底膜(GBM)抗体腎炎」である。

「抗GBM抗体腎炎」は、ヒトでは稀な腎炎(狭義ではグッドパスチャー症候群)であり、実験的には馬杉腎炎を起点とし、Sadoらがラット腎炎モデル³⁾を確立した。

2 腎炎モデルの作製例;

1) ラット(Wky/NCrj、雌10週齢)

K35 100ugを同量のFCAとのエマルジョンとして両後肢足蹠の皮内に1回均等投与。

3週後に尿蛋白が尿試験紙で高度の陽性値を示す¹⁾。

2) ラット(Wistar、雌5週齢)

尾根部皮内にK35を初回50、2週、4週後に各100ugを、同量のFCAとのエマルジョンで投与。6週後に尿蛋白が尿試験紙で上限の陽性値を示す¹⁾。

3) サル(カニクイサル、雌約4歳)

K35 4mgを同量FCAとのエマルジョンとし、両後肢足蹠の皮内に1回均等投与。3週後に尿蛋白が尿試験紙で陽性値を示す¹⁾。

*WCN 6 8~12, 2003 BERLIN.

**9th APC OF Nephrology 2 16~20, 2003 PATTAYA THAILAND.

4) サル(カニクイサル、雌約4歳)

背部皮内にK35を初回1mg、3週後3mgを、同量のFCAとのエマルジョンで投与。4-6週後に尿蛋白を示す^{*}。

*第47回(H16)日本腎臓学会 5 27~29 2004.宇都宮.